

科学技術コミュニケーション推進事業機関活動支援型
平成 27 年度採択企画
実施報告書

1. 企画名

調布市域における近隣教育機関と地域の相互連携における学生災害ボランティアの育成

2. 提案機関名

国立大学法人電気通信大学

3. 提案企画の概要

本企画は、東京都調布市内の電気通信大学の学生を中心とした若い災害ボランティアの育成と防災における ICT の利活用の推進を目的としている。

本目的を達成するために東京都調布市内の 3 つの行政区分の異なる教育機関（国立大学法人電気通信大学、東京都立調布特別支援学校、調布市立第一小学校）と自治体（調布市）、地域住民との相互連携による防災訓練を実施し、大学生が地域に溶け込み地域住民と共同して防災活動を実施できる体制を作り上げる。理工系大学の有する自然災害に対する最新の知見やエリアワンセグ放送、地理情報システム (GIS) や ICT 技術等の防災・減災への利活用について地域一体となって考える。

4. 企画の特徴

本企画の特徴は、行政区分の異なる 3 つの教育機関と周辺地域住民が連携して地域防災機能を高めようとする点にある。災害時における各機関の役割と課題と共有し、助け合うことで各学校の防災機能を強化できるとともに、地域におけるニーズを把握することで地域防災への貢献度も向上すると考えられる。

5. 総合所見

概ね目標とする成果が得られた。

行政や学生災害ボランティアが教職員、地域住民らと連携しながら防災訓練を実施し、帰宅困難者支援ステーションにおける災害情報共有の体制が構築できたことは評価できる。

しかしながら、学生災害ボランティアの育成にやや課題が残ったと言える。今後の取組においては、災害ボランティアの育成にも力を入れていただきたい。重要なテーマであるため、引き続きの展開・発展性に期待したい。

6. 実施者からPR・感想について

3回の防災訓練、1回のシンポジオンに約270名の大学生が参加した。都立調布特別支援学校の総合防災訓練や調布市総合防災訓練では、学校教員、地域住民と学生が一体となって帰宅困難者支援ステーションの設営、要救護者支援訓練等を行い、災害時の学校と地域の役割および課題について知るとともに、地域連携の重要性について理解を深めることができた。また、大学が取り組むSNSやエリアワンセグ放送などのICTの利活用として、近隣教育機関である調布市立第一小学校、都立調布特別支援学校でもエリアワンセグ放送を受信できる環境を整えた点は、災害情報の共有という点で有効である。社会連携シンポジオンでは、3回の防災訓練を通じての学生災害ボランティアの育成やICTの利活用におけるメリットや課題について専門家に加え、自治体、地域住民、教育機関の3者で協議できた点は、今後の共助体制を整備していく点で多いに役立った。

今後の課題として、災害ボランティアの育成に向けて継続した活動を実施していくことにある。そのためにも、時間を掛けての取組に加え、日常的に地域との繋がりを生み出していく仕組み作りが重要と考える。



社会連携シンポジオン（テーマ：災害ボランティアの育成と防災におけるICTの利活用の推進）



ワンセグ受信実験（電気通信大学総合防災訓練）

以上